

「しごとのかんづめフェア」で自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は1月13日（日）、グランシップ（静岡市）で行われた静岡新聞社主催の「しごとのかんづめフェア in 静岡」において自衛隊をPRした。

この合同企業説明会は、静岡県内52の企業や団体が会場内にブースを設置。自衛隊の採用制度について説明を行ったほか、滝ヶ原駐屯地（御殿場市）普通科教導連隊で勤務する石橋優子3等陸曹と初江月海陸士長が、自衛官を職業として選んだ理由や仕事のやりがいなど自らの体験談を交えて、転職希望者に自衛隊の魅力について分かりやすく説明した。

ブースを訪れた参加者からは「自分と年齢が近い隊員から説明を聞くことで親しみを感じ、自衛隊をより身近に感じることができた」「男女の差なく活躍できる仕事が多くあることを知り、興味を抱いた」などの声を聞くことができた。

静岡地本は、このような企業説明会を積極的に活用し、今後も部隊と連携して丁寧で魅力ある説明に努め、一人でも多く自衛官志願者が増えるよう募集活動に邁進していく。

海自東京音楽隊が吹奏楽部生徒にプロの技を指導



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、1月25日（金）、グランシップ（静岡市）において海上自衛隊東京音楽隊（東京都世田谷区）の隊員による常葉大学附属常葉中学校・高等学校吹奏楽部（静岡市）生徒への演奏指導を支援した。

これは、静岡県防衛協会主催の「第38回静岡音楽祭」に両団体が出演したことで実現したもの。音楽隊の隊員は生徒たちに少しでも自衛隊を身近に感じてもらうと、ステージや出演者控室でパートごとに分かれて指導を行った。

演奏指導では、隊員が生徒の隣に寄り添って「一つひとつの音をしっかりと出すように意識して」と親身にアドバイスをして一緒に音を出したり、「明るい曲や悲しい曲など、曲のイメージを音に反映させるともっと良くなる」と高度な技術指導なども行われた。生徒たちはプロの技を学ぼうと真剣な眼差しで指導に聞き入る傍ら、時には「この部分を教えてほしい」「やっぱりプロの技術はすごい」と笑顔で隊員とふれあっていた。

静岡地本は、今後も各学校と連携して生徒が自衛官とふれあう機会を数多くつくり、自衛隊の多岐にわたる任務や、平和を仕事にする自衛官という職業を正しく知ってもらうための広報活動を進めていく。